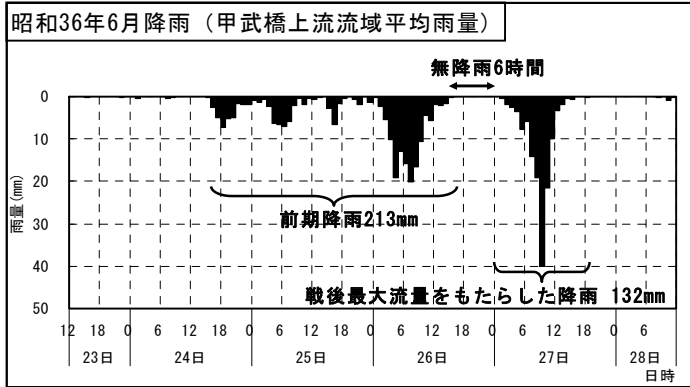
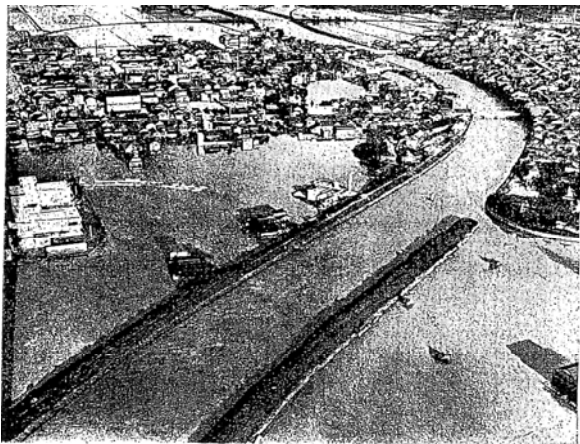


昭和36年6月26日から27日にかけての降雨の状況



昭和36年6月26日から27日にかけての武庫川での被災写真



浸水を受けた市街地 (産経新聞社提供)

写真1 浸水を受けた市街地 (産経新聞社提供)  
(出典:「第37号 伸びゆく三田」昭和36年7月10日)

浸水した三田駅前通り 三田市 今昔



昭和36年  
昭和36年6月24日から降り出した雨は、26日の午後3時までに223ミリに達した。武庫川は危険水位37メートルを大きく上回り、4.5メートルに達した。市では水害対策本部を設け、水防団員1000人を動員して警戒にあたる一方、住民5000人に避難命令を出し、三輪小学校などに500人を収容した。市内で床上浸水300戸、床下浸水630戸のほか、橋の流失2か所、がけくずれ4か所、田畑の冠水などの被害は約1億円に達した。

写真2 浸水した三田駅前通り  
(出典:「三田市今昔」)

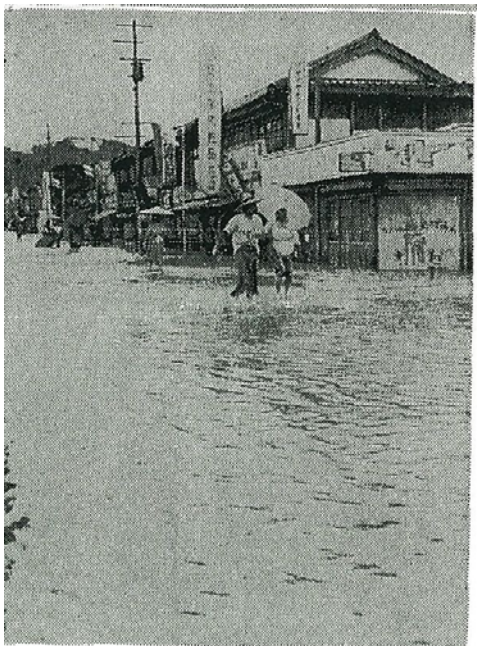


写真3 水びたしとなった三田駅前通り  
(神戸新聞(攝丹版) 昭和36年6月27日)

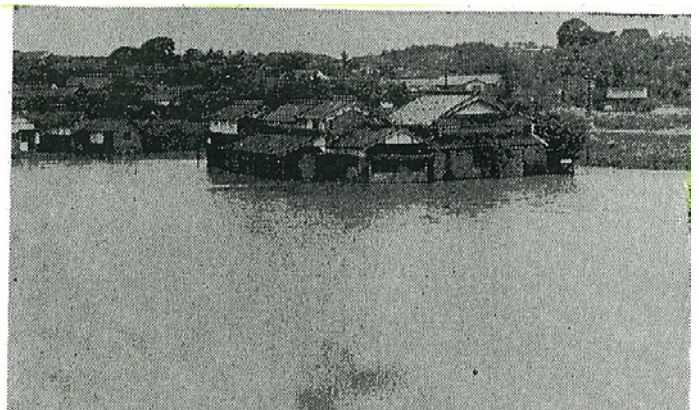


写真4 池のようになった田畑=三田市役所付近で  
(神戸新聞(攝丹版) 昭和36年6月27日)



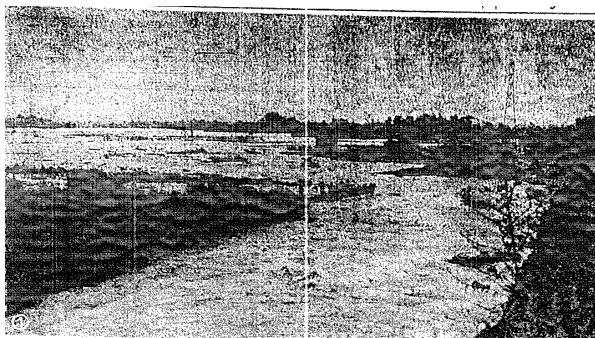


写真5 ぽっかりと口をあけたような大きな傷口  
水は流れをかえ田へ流れ込んだ＝伊丹市  
荒牧天王寺川で  
(神戸新聞(阪神版) 昭和36年6月27日)



写真6 もう夏とはいえ水は冷たい。しかし自衛隊員はうずまく水中で仕事を続けた＝伊丹市  
荻野天神川で  
(神戸新聞(阪神版) 昭和36年6月27日)



写真7 伊丹・天神川堤防の補強工事に活躍する自衛隊員  
(読売新聞(阪神版) 昭和36年6月27日)



写真8 堤防決壊で黙々と作業する自衛隊員  
＝伊丹市荻野・天神川で、27日午後0時半頃写す  
(神戸新聞(阪神版) 昭和36年6月28日)



写真9 第二阪神国道「武庫川大橋」西詰め橋脚に土のうを積み、堤防のくずれを防ぐ＝西宮市武庫川町で、  
27日午後2時50分ごろ写す  
(神戸新聞(阪神版) 昭和36年6月28日)





はやくも復旧に立ちあがる

# まず被災者を救助……

## 阪神間 防疫にも乗り出す

阪神間各地は二十七日も、水の猛威にさらされた。むじらしい傷あとを  
残したが、午後からはやくも復旧作業をはじめ被災者もあつた。各市は被  
災者へ救いの手をさしのべるとともに、きょう二十八日からは本格的な防疫  
対策にも乗り出す。各市の被害のあとをみながの救助対策を調べてみた。

### 尼崎

尼崎は武庫川が三・六メートル、三島が五・九メートル、  
岡田近江川水位の武庫川左堤防に二万石もりの水がたまり、市内丸島町、道

阪神間など床上浸水六百戸、床下  
浸水九千四百六十三戸を出し、猪  
子川堤防も四万所が破損、市内又  
田原町一武庫川が不通となった。

# 武庫川警戒水位越す

宝塚市は水防対策本部を設けたが  
雨量は午前十一時まで三・四〇  
に達し、武庫川警戒水位の三・五  
を突破した。午前中家庭全壊三、半  
壊三、床上浸水五十五戸、床下浸  
水百六十戸、ガケもつれ二十五  
カ所を達した。

▽尼崎市では午後二時現在床上  
浸水二百四十戸、床下浸水七千  
四百三十三、道路浸水十八カ所を達  
し、井光寺、金葉寺、長各地区で  
約五百人近くの小学校に避難車  
輛を動かした。市内全小、中学校も  
六十人以上は休校、市立高校二校  
は休校した。

▽西宮市内は御手洗川、新川、  
東川、瀬川などが朝日引きつ  
り高水位に、一部ではつたのお  
それもある。同市の園部地区  
北條付近一帯の浸水も、とちひ  
よく近年現在、同市の床下浸  
下浸水は八千九百八十戸(同市水防  
本部調べ)北部の八木山では、  
山くずれを起している。

▽午後一時現在、首屋市内では  
床上浸水四百二十戸、床下浸水三  
百八十五戸、ガケもつれ十二カ  
所、家屋倒壊二戸、河川浸水一  
戸、同半壊五カ所の被害が出た。午前  
八時半ごろの強風で市街地御手洗川の  
橋が壊れた。

▽午後一時現在、首屋市内では  
床上浸水四百二十戸、床下浸水三  
百八十五戸、ガケもつれ十二カ  
所、家屋倒壊二戸、河川浸水一  
戸、同半壊五カ所の被害が出た。午前  
八時半ごろの強風で市街地御手洗川の  
橋が壊れた。

27日の阪神各地の被害(午後5時現在・各市水防本部など調べ)

西宮	尼崎	伊丹	宝塚	芦屋	川西	合計
死者	2	3	2	3	2	14
重傷	3	3	3	3	3	15
軽傷	210	210	210	210	210	1050
全壊	8	9	6	6	1	30
半壊	506	463	35	37	3	1044
床上浸水	4	7	6	6	1	24
床下浸水	19	6	6	6	2	39
ガケもつれ	4	7	6	6	1	24
家屋倒壊	2	3	2	3	2	12
道路浸水	18	18	18	18	18	90
河川浸水	11	11	11	11	11	55
堤防破損	364	364	364	364	364	1820

伊丹 伊丹市の二百所の被  
害家数は床上浸水  
十戸、床下浸水千七百四十戸、  
田畑の浸水七百七十四町、堤防浸  
壊四カ所、道路損壊四カ所、橋の  
決壊四となった。同市は災害後の  
防疫対策に全力をあげており、二  
十七年後七時までに浸水被害の  
尿を採取し終わったほか、石炭  
を散布、浸水家屋約一千戸に薬  
二種を無料配布した。また、市内の  
家庭でトイレ一袋を配った。

伊丹 伊丹市の被害は、  
が深刻で、中でも被害の甚しい  
園の被害は、浸水した武庫川が  
僅差たりが、今度はこのすい  
められていたが、今度はこのすい  
下流の未改修の堤防が切れてしま  
った。これは川原を下り、護岸工事  
さえすれば、今度の浸水くらいは免  
われていたといふ噂もあつた。  
同市水防本部は十七日、すい  
く水防指令を出し、全市四百人の  
水防団員を募集、危険地区には防  
備車をまわして、いかに被害を  
軽減するかの活動として、いかに効  
果をあげたが、いかに被害を減  
らして、同市の被害を減らすか  
が、先決だといふ高き目標を掲げた。



## 資料 1-5 下流部築堤区間における河道対策の安全性の検討について

「河川整備計画(原案) 第4章 河川整備の実施に関する事項

第1節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

1 河川対策 (1)河道対策 ①下流部築堤区間」に関すること

### 要 旨

密集市街地を流れる下流部築堤区間のうち、南武橋から JR 東海道線橋梁間の約 3km 区間は、洪水の流下能力が著しく低く、この区間の安全性向上は喫緊の課題である。

本資料は、この流下能力不足を根本的に解消し、早期かつ着実に安全性を向上させるため、橋梁補強や堰・床止工の撤去も併用した河道掘削の実現可能性について、以下の技術的検討を行い、その結果をとりまとめたものである。

- ①水理模型実験による橋梁の安全性検討
- ② 1次元河床変動計算による長期的な河床の安定性
- ③ 2次元河床変動計算による湾曲部等での局所的な河床低下
- ④河床ボーリング調査による河床の地質（掘削後の河床の安定性）
- ⑤堤防の浸透流計算による高水敷掘削後の堤防の安全性
- ⑥塩水遡上及び地下水流動計算による河道対策が地下水に及ぼす影響検討

なお、模型実験並びに各種数値シミュレーションは、河道掘削が引き起こす様々な現象の傾向を把握し、事業実施時の留意事項を明確にするために行ったものであり、数値結果を絶対視するものではない。

事業実施にあたっては安全性確保に向けて、更なる検討を行うとともに、事業実施後においてもモニタリングと維持管理を重視することが必要である。

### 資料構成

#### 検討要旨

- 1 武庫川の概要
- 2 河道対策の概要
- 3 河道対策の安全性検討
  - A 水理模型実験
  - B 1次元河床変動計算
  - C 2次元河床変動計算
  - D 河床ボーリング調査
  - E 堤防の浸透流計算
  - F 塩水遡上・地下水計算

下流築堤区間における高水敷掘削について

- 4 検討結果総括

武庫川水系河川整備計画(原案)等に関する説明用補足資料

## 下流部築堤区間における河道対策の安全性の検討について

### 【目次】

検討要旨	P 1
1 武庫川の概要	P 15
2 河道対策の概要	P 16
3 河道対策の安全性検討	P 17
A 水理模型実験	P 18
B 1次元河床変動計算	P 21
C 2次元河床変動計算	P 21
D 河床ボーリング調査	P 23
E 堤防の浸透流計算	P 24
F 塩水遡上・地下水計算	P 25
下流築堤区間における高水敷掘削について	P 28
4 検討結果総括	P 32